

# PACガーディアンズ通信



第33号 2022年2月25日  
発行: 特定非営利活動法人PACガーディアンズ



## 『PAC ガーディアンズ定例勉強会 報告』

テーマ; 私たちが目指す地域づくりとは  
～袖ヶ浦福祉センター廃止への取り組みと  
共生社会の実現に向けて～

講師陣: 前千葉県健康福祉部長 横山正博氏  
県障害福祉事業課長 原見律子氏  
県障害者福祉推進課長 大野義弘氏  
当法人顧問 佐藤彰一

袖ヶ浦福祉センター廃止から思うこと～定例勉強会に参加して～ 当法人理事 佐藤裕美

2013年11月袖ヶ浦福祉センターで虐待死亡事件が発生しました。

当時私の息子は千葉県立千葉盲学校高等部3年生でした。息子は生まれつき全盲で知的障害も併せ持っています。この事件は、卒業を目前に他人ごとではないと、漠然と感じていたことを思い出します。

「強度行動障害」という言葉を耳にしたのもこの頃でしたが、見かけたこともなく、単に素人では支援が難しい障害という認識でした。家庭で一緒に生活することが難しいため入所されている方々。しかし、閉ざされた環境の中で、自らの気持ちがうまく発信できず理解してもらえず、それでも指示に従わなければならない、それはいつしか強要に変わっていったのだろうか？そして反発した結果だったのか？などと考えてしまいました。

そんな中、思春期を迎え卒業後の不安を抱えた息子がパニック行動をとるようになりました。主に激しい自傷行為ですが、制止しようとするすると標的がこちらに移り、他害行為になります。本人は、はじめは衝動が抑えられずに行為に及びますが、そのうち自制できなくなり涙を流しながら自傷行為を続けます。落ち着くと泣きながら「ごめんなさい」を連呼します。このような状態に近いのが強度行動障害なのだろうか。確かにこの状態がこの先何十年も続くのかと思うと、どこかに助けを求めたくになります。息子は何か理由やきっかけがあって行為に及んでいると信じ、模索しました。在学中は寄宿舎を利用し、親元を離れささやかな開放感があったのだと思いますが、卒業後は自宅で親の監視下。そこで週に1回ナイトケアサービスを利用し、外泊するようにしました。パニック行動は徐々になくなりました。環境を変えたことが解決の一つでした。

千葉県が袖ヶ浦福祉センターの令和4年度末の廃止を公表した時、本人はどこへ行くのだろうか？支援が難しいため入所させたのに、自宅に戻すことはできるのか？と頭をよぎりました。

今回の勉強会では、行政が第三者検証委員会等の提言を受け、県内全域を対象とした新しい支援システム構築を目指し、尽力されてきた経緯を知ることができました。(こんなに熱い思いで関わってくださる職員がいらしたことに感謝いたします。)

「集団支援から個別支援へ」民間のノウハウを活かした支援体制の構築、そのために施設の廃止を決めて退路を断った千葉県の挑戦と覚悟を感じました。お一人お一人が環境を変え、そして大規模ケアからきめ細やかな支援を受けることで、穏やかな生活が保障されることを期待しています。

悲しい袖ヶ浦福祉センターの虐待死亡事件から始まった、個を尊重した「千葉県が目指している共生社会の取り組み」は今後どのように展開し、必要としている方々への支援が行われ、障害者が安心安全に過ごせる社会となっていくのか見守っていきたいと思います。



## 研修会参加報告

障害者成年後見支援  
センター長 野口友子



令和三年十二月十七・十八日  
知多地域成年後見センターで  
開催された「権利擁護に関する  
相談支援事業従事者中堅研  
修」に参加してきました。参  
加者は十二名でした。

一日目は「私」の個別支援計  
画を作り合うということ、  
最初にお互いのフェイスシー  
トを作成。自分のことを、聴か  
れること、話すことは案外、大変なことだと感じ  
ました。相手が、どう思っているのか、何がした  
いのか、そこを見誤らなければ、支援の方向性は  
間違わないと思っています。

二日目は「目標設定と戦略的な計画立案」で  
す。目標達成のために、何が障害になっている  
か、それを克服した状態である中間目標、中間目  
標を達成するための手段を考える。「どうやった  
らできるか」ではなく、出来ない理由を全て出し  
てみることから始め、それを取り除く方法、行動  
を考えます。

この二日間のワークショップで、自分では考  
えないようなことが目標や手段になること、頭  
で考えていることを、言葉にすることは難しい  
ことなど、自分の苦手なことに気づき、自分自身  
の支援について見つめ直すことができた良い研  
修でした。このような研修は横の繋がりができ、  
皆同じように悩み支援に当たっていることを知  
ることが出来ます。次回は他のセンター職員に  
参加して欲しいです。

## ある日の後見日誌

S様は精神科病院に約二〇年入院さ  
れており、退院にあたり保佐人として関  
わることになりました。団地での独り住  
まいを再開して約7年、自由な生活を満  
喫していましたが、年齢によるADLの  
低下から外出中の転倒で救急搬送され  
ること数回、一人暮らしは厳しいのでは  
と支援者間で話が出たところ、自宅で一  
人入浴中に湯船から立ち上がれず溺れ  
かけてしまったのです。S様は何かと『持  
っている男』で、ヘルパーさんに助けられ  
て事なきを得ました。しかしラッキーに  
頼るには限界、危険が予想できるのでに放  
置することは虐待にあたるためケアマネか  
らも話があり、早急に施設探しを開始。  
数件目で即入居できる特養が見つかり  
ました。やはりS様は『持っている男』、  
S様の生活ぶりを考慮した支援を提案  
してくれる施設でした。しかし自由なお  
ひとり様生活を満喫するS様にどう説  
明すべきか：現状の生活の課題と施設  
に入った場合の生活、金銭面についても  
丁寧に説明しました。するとS様は私に  
向かって「年貢の納め時ですかねえ」の言  
葉（涙涙）施設探し開始から入居まで2  
ヶ月間、入居先の選定、現サービスの停  
止、現住居の処分と盛沢山の業務の中、  
S様との絆も確認できた日々でした。



### 成年後見支援センターだより

①法人後見受任状況（令和3年12月末現在） 船橋市内 84件 船橋市外 30件

	後見類型		保佐類型		補助類型		計 人数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
船橋市内	25人	30%	52人	62%	7人	8%	84人
船橋市外	8人	27%	18人	60%	4人	13%	30人
計	33人	29%	70人	61%	11人	10%	114人

内訳 知的障害 63件 精神障害 42件 高次脳機能障害 7件 高齢者 2件

### ②成年後見人候補者養成講座

当法人主催の成年後見人候補者養成講座は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みながら開催について検討中です。受講希望者は直接下記事務局にお問合せください。

発行： 特定非営利活動法人PAC（ぱっく）ガーディアンズ 理事長 名川 勝

事務局： 〒273-0005 船橋市本町 6-3-16 レックスマンション602号室 ホームページ <https://pacg.jp/>

tel 047-407-4441 fax 047-407-4860 メール [info@pacg.jp](mailto:info@pacg.jp) 後見・権利擁護関係のご相談お受けします